



作品鑑賞



第3回日中書道交流展

つなぐ書

文化体験



第三回日中書道交流展が6月27日、いくらで開催されました。この交流展は、中国の子どもたちが牧之原市に訪れたことがきっかけとなり、中国でも大変有名な書法家である朱涛氏の提案により、平成21年から行われています。

今回、富士山静岡空港に降り立った中国・上海市長寧区書法家協会関係者は105人。市文化協会書道部の皆さんと、書道の腕前を披露し合う書き比べ(席上揮毫)を行い、会場の皆さんから、その見事な腕前に大きな拍手が何度も送られていました。

市文化協会書道部の大石啓嗣先生は「前回の書道交流展は、私たちにとって大変勉強になりました。中国からこられた皆さんには、書道交流や日本の文化体験を楽しんでほしい。西原茂樹市長は「日本での体験を通じて、日本の伝統や文化を吸収してほしい。そして、お帰りの際には、身近な人に『よかったよ』と伝えてください」と交流の輪が広がるよう話しました。

中国の皆さんは、書道の他に茶道や和菓子づくり、着物の着付けなどの文化体験を満喫し、牧之原市との友好が大いに深まりました。

源遠流長

上海市長寧区書法家協会
主席 朱涛氏

書道交流展は牧之原市の皆さんのおかげで成り立っており、再び美しい牧之原市に来ることができうれしく思います。

今回の交流展は、日中双方の紐がさらに深まり、お互いの熱い思いによる交流やおもてなしを、心から感じ取ることができました。

今後さらに日本と中国の人が書道を通じて交流ができるよう、お互いに協力し合い、継続、発展させていきたいと考えています。

さらに、書道だけではなく芸術や青少年の交流など、さまざまな分野での交流も強めていきたいと思っています。



席上揮毫

①②③④⑤⑥みんなが見守るなか日中双方の書道家が見事な腕前を披露 ⑦⑧⑨会場に展示された115作品を見て楽しむ参加者たち ⑩⑪⑫⑬⑭⑮茶道や和菓子づくり、着付けなどの日本文化を体験